

血液・腫瘍内科専攻医カリキュラム

1. 目標

血液専門医として求められる能力の大部分を習得し、一人ひとりの患者さんの求めに応える最善で最新の医療を提供できるようにする。

このためには、以下の行動目標を設定します。

- (1) 国内外を問わず最新の知識と技術の習得に常に努める。
- (2) 偏見を排して自ら事実を観察・確認して記録することができる。
- (3) 個々の患者さんの求めを理解して最善の治療法を提示することができる。
- (4) 治療を開始する際には、予め説明のうえ納得・了解を十分に得ることができる。
- (5) 結果については常に記録・整理して第三者の評価を含めて反省改善に努める。

2. 研修スケジュール

年度	内容
1年度	内科各科をローテーション。初期研修 2年目のローテート実績を加味します。
2年度	基本的な疾患の研修。学会・研究会での症例発表。 日本内科学会認定医の資格取得。
3年度	稀な疾患の研修。 造血器腫瘍の病理研修。 チーム医療体制の維持に係る業務。 臨床研究の発表。論文発表。
終了後の予定	がん治療認定医資格取得。 名大血液研修システムに従う場合は、スタッフ医師として通常1年程度研修を継続した後に、他の血液専門科を有する施設にて研修。希望者はその後、大学院へ進学。

3. 研修体制

1) 教育病院の指定の有無

- 日本内科学会教育病院
- 日本がん治療認定機構教育病院
- 日本血液学会教育病院

2) 研修カリキュラム

- 以下に準拠
- 日本血液学会「血液専門医研修カリキュラム」
- 日本がん治療認定医機構「がん治療認定医研修カリキュラム」
- 日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医のための研修カリキュラム」

3) 取得可能な認定医および取得可能な時期

卒後 6 年以上の臨床研究が必要です。さらにうち 3 年以上日本血学会認定施設(当院は認定施設)での研修が必要です。申請時に日本内科学会認定内科医であること、継続して 3 年以上の血液学会員であること、筆頭者としての学会発表または論文が 2 つ以上あること、がん治療認定医機構認定医に求められる程度のがん治療の知識が求められます。外科等の調整で薬物治療専門医受験に必要な症例経験ができるよう調整が可能です。

従って、最短で専攻医制度終了後、1 年の血液研修を終えた時点で認定医の受験が可能です。この間に、日本内科学会認定内科医の資格を取得し筆頭者として学会発表または論文発表を 2 つ以上行うことが目標となります。なお、診療実績が必要ですが、症例の種類と症例数は問題なくクリアできます。

4) スタッフ体制

部長 1 名、副部長 1 名、常勤医 1 名、専攻医 1 名、研修医 1-2 名

5) 症例検討会、抄読会等のスケジュール

- (1) 症例検討会: 毎週火曜日 5:30-8:00
- (2) 抄読会: 毎週月曜日 4:00-5:00
- (3) スタッフ会議: 毎週金曜日 1:30-2:30
- (4) 病理・血液合同カンファレンス 2 ヶ月に 1 回 第 3 月曜日 5:00-6:00

6) 主な参加学会

年一回の学会出張費を支給します。筆頭発表の場合は回数の制限はありません。

- (1) 日本血液学会 (2) 日本臨床腫瘍学会 (3) 日本輸血・細胞治療学会
- (4) 日本造血器移植学会 (5) リンパ網内系学会 (6) 米国血液学会 (ASH)
- (7) 日本骨髓腫研究会

7) 定期的に参加する研究会等

- (1) 名古屋 BMTG 例会 年 6 回
- (2) 東海悪性リンパ腫研究会 年 2 回
- (3) 白血病スライドカンファレンス 年 2 回
- (4) 東三河血液疾患ネットワーク 年 3 回

8) 主な経験目標

以下基本的に、日本血液学会「血液専門医研修カリキュラム」に準拠します。その他として造血器腫瘍の病理を病理検査室にて週 5 時間 1 年間実習を課します。

A. 診察法・検査・手技

- 1. 診察法
- 2. 検査法

スライド標本作製(末梢血、圧挫標本、塗抹標本、吹き付け標本、MG 染色)
骨髓検査(骨髓穿刺;腸骨、骨髄穿刺(胸骨)、骨髓生検、骨髓標本作製)
輸血検査(血液型判定、交差試験)

- 3. 基本的手技

幹細胞採取(ルート確保、ルート接続、幹細胞数のカウント、幹細胞凍結保存)
洗浄血小板作成

- 4. 基本的治療法

B. 経験すべき症状・病態・疾患

1. 症状
2. 病態
3. 疾患

C. 研究会・学会発表・論文発表

1. 研究会発表 以下の研究会等のいずれかに 5 回以上の発表を行う。
三河血液疾患ネットワーク例会、東海悪性リンパ腫研究会、白血病スライドカンファレンス
2. 学会発表 以下の学会のいずれかに 5 回以上の発表を行う。うち一回は臨床研究であること。
日本内科学会、日本血液学会、日本臨床腫瘍学会、リンパ網内系学会
3. 論文発表 学会誌のいずれかに 1 編以上の掲載を行う。

9)その他

(1) 購入洋雑誌(血液関連のみ)

①Blood ②Br. J. Haematol ③ J Clin Oncol ④ Leukemia ⑤ Bone Marrow Transplantation ⑥ Cancer ⑦ New Engl J Med ⑧ Lancet

(2) 全員に端末(ノート)とインターネット環境を完備